



## ● J コース 淡水魚

①-1 ウナギ

①-2 ウグイ

①-3 オオクチバス

①-4 ヨシノボリ

このコースではおもに川にすんでいる魚を調べます。種類によっては池や湖にすんでいることもあるので、身近な水辺で見つけやすい魚を選びました。

オオクチバスは、ゲーム釣りの目的で全国の湖、池、川などに放流されているものが、最近では繁殖して増えています。

ウグイは、水のきれいな、おもに川の中・下流で見られます。体の色が美しくなる春から夏にかけての産卵期が見つけやすいでしょう。

川の両岸が石積みであったり、草が茂り岩などの隠れ場所が多いところでは、ウナギを見つけてください。

ヨシノボリ。変わった名前の魚ですが、いろいろな水環境にすんでいるハゼの仲間です。浅い水底にたくさん群がっていることが多いので、おもしろい顔もじっくりながめてください。

これらの魚は自分で観察できるもののほかに、釣りや漁などをしている場所で見られるものもあります。情報集めをするには、このような場所も活用してください。

# ウナギ

● *Anguilla japonica*

## ■かたちと大きさ

体は細長く、ひも状。全長50~90cmになる。背びれとしりびれはつながる。腹びれはない。背面は黒褐色で、腹面は白色。体はヌルヌルしていて、つかみにくい。

## ■見られる場所

おもに川で見られるが、湖や池沼、水田などに広くすむ。

## ■くらし

川岸の石積みや岩だなの隙間、水草の茂みなどに好んですむ。日中は物陰ものかげに隠れているが、夜になると活発に動き回り、餌を探して食べる。

「しらすうなぎ」と呼ばれる全長7cmぐらいの透明な幼魚が、1~3月頃に海から河口に集まり、川をさかのぼる。

## ■おもな分布地

ほぼ全国に広く分布する。琉球諸島では別種のオオウナギの方が多い。



## ■見つけ方・見分け方

護岸されていない水辺で探そう。安全な場所であれば、水中を観察して確認するのも良い方法。

調査場所の付近で漁をしている人や釣人からも情報を集めよう。

## ■注意

オオウナギは、全長が150cmにもなる大型のウナギ。全体が黒褐色のウナギにくらべて、オオウナギの体には茶褐色の斑紋が多数ある。地域によりオオウナギはカニクイ、ゴマウナギと呼ばれている。



# ウグイ

●*Tribolodon hakonensis*

## ■かたちと大きさ

体は紡錘型で、細長い。全長は20～50cm。背びれは1つで、背側の中央にある。胸びれは、腹側のかかなり下方についている。鼻先が、口より少し前にでている。普段の体色は、全体に灰青色で、鱗はきらきらと輝く。

## ■見られる場所

川の上流から河口まで広く見られる。湖や池沼などにもすむ。

## ■くらし

川にすむウグイには、幼魚期に海に下るものと、一生を淡水中ですごすものがある。

流れのある瀬や淵場に、群れで生活する。川に堰があるところでは、ジャンプをして乗り越えることもある。

春から夏（関東地方以南では3～5月、関東地方以北では6～7月）にかけてが産卵期。

## ■おもな分布地

ほぼ全国に広く分布する。四国の瀬戸内海側と琉球諸島にはいない。



## ■見つけ方・見分け方

体に鮮やかな朱色の<sup>こんいんしよく</sup>婚姻色が現れる（写真）産卵期に確認するのが確実。釣魚としても人気があるので、釣人や釣場からも情報を集めよう。

## ■注意

ウグイの仲間には、マルタウグイ（東京湾・富山湾以北の大きな川に生息）、エゾウグイ（北海道・青森・秋田・岩手・福島地方の大きな川に生息）、ウケクチウグイ（新潟地方だけに生息）などがあるが、今回の調査ではとくに区別せず、これらも「ウグイ」として調査の対象とする。



# オオクチバス

●*Micropterus salmoides*

(別名ブラックバス)

## ■かたちと大きさ

体型はやせ型(スズキ型)で、体高は低い。全長は30~50cm。口は大きく、上あごの後端が眼の後ろ近くまである。下あごは上あごより少し長い。背びれは1つで中央がくぼむ。体の中央には、頭から尾まで1本の黒い縦帯が斑点状にある。

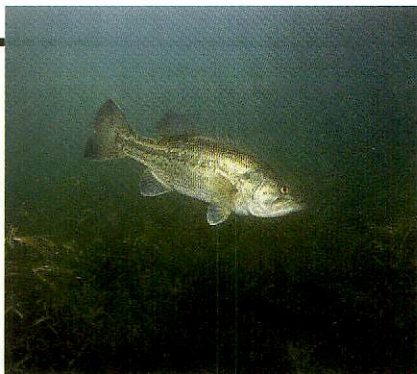
## ■見られる場所

湖岸や流れのゆるやかな川の淵、池沼などにすんでいる。

## ■くらし

春から秋にかけては岸辺近くの水草、岩、沈木の陰に隠れながら、活発に餌をとる。水温が下がると、深い場所に移動する。エビやカエル、小型淡水魚まで何でも捕らえて食べるので、地域によっては害魚とされている。5~6月頃に、幼魚が水面近くで群がりを作ることがある。

1925年に、アメリカ合衆国から移入された外来魚。



## ■おもな分布地

日本全国の湖、河川、池沼にひろく分布する。水田の用水路や公園の池などにも放流されていることがある。

## ■見つけ方・見分け方

案外と警戒心が強いので、岸辺や橋の上からそっと見つけよう。ルアー釣りの対象なので、釣人からも情報を集めよう。

著しく大きな口は、日本の淡水魚には見られない特徴。



# ヨシノボリ

●*Rhinogobius brunneus*

## ■かたちと大きさ

全長は5～7cm。体長と比較して頭部が長めで、大きな両眼はならんで頭の上にある。背びれは2つ。腹の下側に吸盤型の腹びれがあり、ウチワ状で大きな胸びれとともに川底生活に役立っている。

## ■見られる場所

平地から山地にかけての川、湖、池沼、用水路などに広くすむ。

## ■くらし

春から秋にかけて活発に活動し、5～7月の産卵期には浅瀬の石の下に巣作りをする。石の下に隠れたり、上に登ったりしながら、ちょこまかとよく動き回り、集団で生活している。追いかけると、川上の方へよく逃げる。

## ■おもな分布地

北海道を除く全国に広く分布するもの(写真①タイプのヨシノボリ)と、琉球諸島を除く全国の湖水とその流入河川に広く分布するもの(写真②タイプのヨシノボリ)がある。



## ■見つけ方・見分け方

動きが活発な夏に、川や湖の浅瀬で、頭部の頬に、赤褐色の「ミミズ模様」のあるハゼの仲間(写真①タイプ)を探そう。産卵期であれば、婚姻色の現れた、目立つ体色(オスは第1背びれの黄色、メスは腹の青色)の個体を探そう。

## ■注意

ヨシノボリは全国に数種あるが、今回の調査ではとくに区別せず、まとめて「ヨシノボリ」として調査の対象とする。またヨシノボリは、地域によりゴリ、ドンコ、グズ、イーブー、カジカなどと呼ばれている。



(本種の学名にはいくつかの見解があるが、ここでは「日本産魚類大図鑑」(東海大学出版会)によった)

# 1990年 身近な生きもの 調査

●本書はつぎの方々の協力を得て作成しました。

(企画検討) 自然環境保全基礎調査検討会 環境指標種分科会  
 大野 正男 (東洋大学教授)  
 大場 秀章 (東京大学助教授)  
 勝山 章子 (自然観察指導員)  
 金井 裕 (財団法人日本野鳥の会主任研究員)  
 土屋 桃子 (エディトリアル・プロデューサー)  
 浜口 哲一 (平塚市博物館学芸員)  
 林 公義 (横須賀市自然博物館学芸員)  
 山瀬 一裕 (財団法人日本野生生物研究センター常務理事)  
 吉田 正人 (財団法人日本自然保護協会総務部長)

(執筆協力) 上記の他、大場 信義 (横須賀市自然博物館学芸員)

(写真・図版)	新井 裕	金城 道男	菱山忠三郎
	池原 直樹	久高 将和	百武 充
	植原 直樹	杉田 正之	福田 泰二
	内山 隆	塚越 香	松本 明孝
	大場 信義	西方 道之	湊 和雄
	奥山 利希	新田 信悟	森 文俊
	勝山 輝男	浜口 哲一	吉谷 昭憲
	金井 裕	林 公義	吉野 俊幸

●図版をつぎの図鑑から転載しました。

『生物大図鑑 昆虫Ⅰ』(株)世界文化社  
 『日本産トンボ大図鑑』(株)講談社、(株)第一出版センター  
 『山野の鳥』『水辺の鳥』(財)日本野鳥の会

調査のてびき

1990年

身近な生きもの調査

■平成2年3月 第1刷発行

■発行者

環境庁自然保護局

企画調整課自然環境調査室

〒100 東京都千代田区霞が関1-2-2

電話 03-591-3228

わたしも参加します



## 和泉雅子さん

●女優／冒険家

我が町銀座にも、けやき、いちょう、桜、柳といった街路樹があり、カラスだっています。時には事務所にトンボが迷い込むこともあ

ります。信号待ちで空を見上げると鳥が飛んでゆくのを見ることがもできます。

わたしだけの探険隊を組んで、街を闊歩してみたいと思います。銀座のまん中から、都会にだってすばらしい自然のあることをご報告できると思います。

